



第6回勉強会 拡大図書の利用状況の現状を聞く

11/5

東京都葛飾区立住吉小学校 佐島順子先生、横浜市立盲特別支援学校 藤岡理恵先生、千葉県立千葉盲学校 鈴木直美先生をお迎えして、実際に弱視児童・生徒をご指導されている現場からの声をお聞きしようと68名が東京都障害者福祉会館に集まりました。学校の様子を映像で見せていただいた後、長時間にわたる質疑応答で拡大を取り巻く現状をたっぷりお聴きしました。その一部をご紹介します。

*学校紹介

住吉小学校「目の教室」（佐島先生 弱視通級指導学級3校目）
在籍している学校（在籍校）から通級してくる弱視児童が7名（5名は在籍校が住吉小学校以外）いて教室は明るさの調節ができたり、いろいろ配慮されている。1対1の指導が原則だが、合同学習で弱視児童同士コミュニケーションをとれるようになっている。在籍校で生き生きと活動できる手伝いをするのが通級指導学級のあり方と考える。



横浜市立盲特別支援学校（藤岡先生 主幹教諭、司書教諭、高等部普通科、国語社会担当）

在籍生の数が初めて100人を切った。幼稚部、小中学校、高等部、理療科とあり、手で触りながらいろいろな情報を楽しみ取って、勉強にも役立っている。全校で読み聞かせの機会を作っているため、本の好きな子どもが多い。ボランティアもいろいろな場面で活躍してもらっている。

千葉県立千葉盲学校（鈴木先生、中等部数学担当）

2つの図書室があり、ボランティア作製の多種、多数の本が収められている。生徒数は82名、登録ボランティアは40グループある。学内に支援センターがあり、先生が県内の学校に出向き個別指導や、通級での指導をしている。

*パネルディスカッション

司 会：標準拡大教科書に移行している利用者が多いが、標準拡大教科書の使い勝手は？

藤岡：高校の場合、単純拡大しかない教科書が多いが、視力によっては読みにくい。ゴシックが多いが子どもによっては「ゴシックは今一つ？」と感じる場合があり、選択肢がほしい。

佐島：拡大教科書を使用していない通級の児童は結構いる。22ポイントより小さいサイズもほしい。拡大教科書のサイズは持ち運びが楽なB5サイズのほうが望ましい。

鈴木：18,22,26と3種類用意のない標準拡大教科書があるが、3種類は欲しい。同じ生徒でも、教科によってはフォントサイズを変えて使いたいこともある。

司 会：文字サイズ、文字間、大きさ、形、製本方法など補いながらボランティアは作っている。標準

拡大で足りない部分はボランティアで作れると考える。

司 会：デジタル教科書について

どの程度普及しているのかまた今後はタブレットへすべて移行していくのか。

藤岡：高校は自前と貸し出しがあるが生徒一人に1台のタブレットがあり、教科書データは全て入っている。ただ、使いにくいとタブレットを選択しない生徒もいる。使いこなすには訓練が必要。社会の地図検索などは不具合が多い。

佐島：タブレットの普及は地区によりかなり差がある。弱視児童は自前や貸し出しで持ち込んで使っている子もいる。教科書でなく移動教室で使う資料、学校行事資料、教科以外の活動資料（劇の台本など）などを入れて便利に使う。紙媒体と両方を使い分けるのがよい。

鈴木：自立活動の一環としてスマホ、タブレットを使って写真を撮り拡大して使う学習もしている。機器の使用は盲学校に限らず時代の傾向だが、紙も併用で残っていくと考える。

司 会：標準拡大教科書に生徒は満足しているのか？ボランティア作製の方が良いと思われる点があれば教えて欲しい。

佐島：標準拡大ですべて満足しているわけではない。ポイントや行間を選べたら良い。

鈴木：ボランティアへの依頼は児童生徒の様子を見て決めている。標準拡大で見える子はそれを選択し、白黒反転 フォント変換などが必要なものは依頼している。

佐島：普通級に在籍しているとページレイアウトが違う拡大教科書を使い授業についていくのが大変。使いにくいから拡大ではなく普通の教科書を使うということもある。

司 会：副教材、ワークブックや問題集はボランティアへ拡大作製を依頼しているか。

藤岡：進学を考えると問題集は欠かせないがボランティアへは依頼していない。補助器具を使いこなし新しい学校で対応できるように育てている。

鈴木：ボランティアへ依頼している。中学は依頼する場合に分冊が多くなると高額になるためしっかりとした打ち合わせが必要。問題集などの代金は就学奨励費の対象者はそちらで補填する。

司 会：一般の図書について—— 拡大図書の入手法とボランティア作製の依頼と費用

藤岡：蔵書の予算があるので原本を予算内で毎年購入⇒点訳、音訳、拡大等をする。業者持ち込みの見本を年に2回選書会として先生方で見て購入を決める。

佐島：通常級では朝読書があり、図書室などで借りて読む。目の教室では毎年ボランティアグループからいただいており、通級児童に紹介している。夏休みは貸出もしている。

鈴木：図書担当が購入している。市立図書館で、中学高校の課題図書など経費は図書館持ちで拡大してもらったこともある。

司 会：子供たちからのリクエストがあった場合の対処は。

藤岡：図書館運営担当が出来るだけ希望を叶える サピエでデイジー版を借りることもある。

司 会：ボランティアと知り合ったきっかけはどのような形か。

全員：既に多くのボランティアと関わりがあったので、きっかけはわからない。

*質疑応答

Q：原本に使われている字体と同じでといった細かい約束事があるが利用者はそれを必要とするか。

A：・完成品しか見ていないのでそのような配慮がなされていることは知らなかった。

・ボランティアグループによって仕上がりがかなり違うと感ずることがある。

Q：依頼件数が減少し教育委員会や学校公聴会へのアピールはしているが伝わらないように思うが。

A：毎春新しい担当者がゼロから出発して指導するのが一般の学校にある支援級の現状。その担当者が拡大教科書の使い勝手まで思い至らないのが現実の状況。

ボランティアの経験と技術を生かすためにはまずは近くの地域の盲学校の所在を調べそこへ連絡してみたらと思う。

Q：利用する児童・生徒と直接接してはいけないのか。

A：最低限見え方の情報がわかる人と情報を共有して作らねば出版社の拡大（標準拡大）と同じことになる。間に立つ人を通して利用者の状況の情報共有してもらうのが基本では？

司会：プライベート対応の教科書をつくる為の情報で個人情報とは違う。障害者差別解消法に「合理的配慮を提供等するために必要な範囲で、プライバシーに配慮しつつ障害者に障害の状況等を確認することは、不当な差別的取扱いには当たらない。」とある。

勉強会アンケートより ～勉強会の感想～

- ・現場の先生の話や実情が聞けて良かった。
 - 人によっては大きい文字が逆に見えにくいこともある。
 - 弱視を補う工夫がされていて、先生方の熱意がわかった。
 - 長年、同じボランティアが継続して活動していることがわかった。
 - 弱視児童の日常の様子がわかった。
 - 副教材など、解説や「はじめに」は拡大の必要がないと聞き「目から鱗」だった。
 - 弱視児童の見え方に沿ったプライベートサービスにたどり着いていないという実態がわかった。
- ・教科書副教材以外の絵本・児童書についての情報をもっと欲しかった。
- ・在籍校の先生のお話も聞きたかった。（弱視児が常に通う学校）
- ・「拡大教科書とは」と常に語り、伝え、広めるのが私たちの仕事と思った。
- ・高校生に拡大教科書無償給与の制度を適用できるよう運動を進めて欲しい。
- ・盲学校、支援学校、図書館にPRしたい。
- ・弱視の児童の読書環境をよりよくするため、教科書出版社との共存も必要と思う。
- ・タブレット等最新機器の利用が児童に重要ということがわかった。
- ・弱視の子どもが大人になったときも困らないように私たちにできることは何か考えさせられた。

製本自主勉強会を行いました

9/13

下丸子図書館拡大写本研究会 猪狩美知子

昨年秋の全国協議会の製本勉強会の後、グループの会員の一人から製本のこだわり・こつを聞いて、自分なりの工夫などを出し合いミニ勉強会を行いました。次は“糸綴じと厚紙製本を学びたい”と講師を「四街道写本の会」にお願いしました。3名の方が来てくださり、午前中はA4の2つ折り、4折丁の糸綴じを当日出席の20名で実習しました。わいわいがやがや「先生お願いします」の声が飛びかう中で全員完成しました。午後はひかり文庫から4名も参加されて、厚紙製本を工程順に説明実演していただ



いた後、ミリ単位の作業に悪戦苦闘しながら表紙を貼る作業を体験しました。細部にわたる丁寧な製本作業やきれいに仕上げるための自作工具に、完成度の高さを求める日ごろの活動の一端を感じました。

「折角身につけた高度な技術を生かして自分だけの本を作っている」というお話しと素晴らしい作品も見せていただきました。忘れないうちにもう一度勉強会をする事にしています。

四街道の皆様方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。ひかり文庫の方々とも一緒に勉強ができて、このような交流の場が身近な所でもっとできるようになると良いと思いました。

～製本講習会に参加させていただきました！～

豊島区立中央図書館ひかり文庫拡大写本グループ 山本裕美子

『手書きの拡大教科書』を参考にどうぞ。」と頂いて以来、二十年ぶりの訪問となり、その時を知るメンバーも少なくなりました。昨年の拡大教材勉強会で刺激を受けて、後期納入分の拡大教科書で「全開き A3 両面印刷」に挑戦したものの、表紙の仕上げに不安を抱えていました。製本講習会には、4名で参加させていただきました。「四街道拡大写本の会」の方々の丁寧な説明と経験から得られたコツなどを伺い、さっそく実践してみました。A3 ノビでの表紙印刷や見返し用紙など、試行錯誤の状態ではありますが、来年度の製作に役立つ製本講習会でした。お世話になり、ありがとうございました。

全日本盲学校教育研究会の拡大写本展示・「心のバリアフリー」展示・体験会に参加して

神奈川県拡大写本連絡協議会 大西繁定

富士ゼロックスからの依頼により7月27日、28日名古屋で開催された「第92回全日本盲学校教育研究会」の拡大写本展示へ参加しました。この大会は毎年分科会（学習指導、生活、理療、特別支援）形式で視覚障害教育に関する研究発表・研究協議等を行っています。今年の研究主題は「これからの時代の要請にこたえる視覚障害教育の在り方」、参加者は400名、立ち寄ってくれた40数人の先生に拡大教科書をみて頂きました。ボランティアの拡大教科書は見たことがないと言って来られた先生、生徒に合った教科書がどれかで迷うことはよくあると言って説明を聞いてくれた先生、工夫を凝らした音楽の拡大教科書を見て是非取り入れたいと言ってくれた先生、教科書は標準拡大教科書の3種類から選ぶものだと思っていたと言われた先生もいらっしゃいました。

ボランティアの拡大教科書を手に入れるにはどうしたらいいのかとの質問が何人かの先生からあり、盲学校の先生方の中にもボランティアが作った教科書に関心を持っていただいている先生が少なからずいらっしゃる事に大いに力づけられました。

また、慶應義塾大学の中野教授の依頼により、10月8日に開催された「心のバリアフリー」展示・体験会の拡大写本展示に参加しました。ボランティア作製の拡大教科書は保護者の方、先生方にはまだまだ知られていないことを実感。

今後もこのような機会をとらえ積極的に参加し紹介していく必要があると思いました。

拡大 now & 編集後記

 勉強会が終わりました。遠くから来てくださった方もあり、会場は熱気に包まれました。なかなかうまく紙面でお伝えできませんが、世話人会で録音したものを書き起こした原稿があります。ご希望の方にはお送りしますので、お知らせください。また協議会へのご要望などもアンケートに書いていただきましたが、今後ご要望に沿った活動をしたいと思います。

 現在のグループ数 52（社団法人 霞会館 7月末退会）

 全国拡大教材製作協議会では世話人をしていただく方を募っています。ご一緒に活動しませんか！